

一本ゲタ大使館秘蔵の「ハハのアソコ」作品を世に公開します



私がつくりました

ハハのアソコ

加藤静江。1947年名古屋生まれ。1992年ごろより作陶を始め、90年代、2000年代を中心に作陶。2007年あたりから現在まで主宰している「粘土あそび」の集まりでは名古屋の自宅の一室や愛知県瀬戸市の窯場で皆とこねたりお喋りしたり飲み食いしたり。若いころから「レリーフが好き」で、92年当初から「オブジェを作っている」。ろくろは使わない。作品はかたまりではなく、陶芸の誕生要因かもしれないところの「器」の機能を持つ「何かのいれもの・のりもの」がほとんどで、生者と死者のあいだの彼岸（アソコ）的な感じがあり、祭器っぽい。「うつわはすべて楽器である」とも。魂をはこぶ舟や鳥。花器や椅子。長年死蔵していたものを今回展示します（展示作品数：80点ほど）。作品も「ハハのアソコ」。何か入れられます！在廊日あります（日にちは未定）



作者 2005年

ゲタの上にも三千年

一本ゲタ大使館

2003年、一本ゲタに出会い「一本ゲタは自分自身だ」と決めてしまったゲタ大使の住む館。2010年に独立研究者森田真生氏とのご縁をいただき「数学の演奏会」「大人のための数学講座」などの森田真生氏のトークライブを名古屋、岐阜県、富山県などで主催するようになる。2020年富山県の入善町に大使館を引っ越す。asoco.in.coocan.jp

ゲタ大使

加藤陽子。1972年名古屋生まれ。運命にゲタを預け、ゲタに運命を預けたのかどうか。存命中の子のゴミバコ、ハハのアソコの娘で、アニのオタクの妹。2006年に住み始めた借家を自分で「アソコ」と名付け、同時に知人に「一本ゲタ大使館」だと言われたことが今へと続く。ゲタはのりもの。

会場と
交通案内

シーラカンス毛利武士郎記念館
富山県黒部市栗寺41番地
連絡先 090-2120-3015（柳原）
黒部I.C. / 黒部宇奈月温泉駅より車で10分



問
い
合
わ
せ

毛利武士郎記念館 柳原
090-2120-3015
一本ゲタ大使館 加藤
080-5122-2500
ensokai.nagoya@gmail.com